

出版物 紹介

大桃定洋, 2016. 「タマムシの
魅力—癒やしはムシとタイ—」
(月刊むし・ボックス7) . A5判ソフトカ
バー. 175 pp. (うちカラー口絵16 pls.) .
むし社. 定価1,800円+税.

甲虫, とりわけタマムシの研究者として知られる著者が自分史主体の昆虫の書を刊行した. カラーの口絵のうち, 12頁はタイはじめ各地のタマムシ標本, 4頁はタイ旅行のスナップが中心である.

タマムシ科についての分類学的な体系, 日本における研究史, ナガタマムシ属の問題点, 地域ごとのタマムシ相などが解説されているので, まずタマムシに関心のある人には必須であろう. そればかりか, 著者の長年にわたる昆虫との関わりが述べられた自分史部分は, 甲虫愛好家なら誰もが胸ときめく内容に溢れている.

著者は子供のころはチョウを追っていたが, 学生になってオサムシやカミキリなど甲虫の世界を知る. やがて阿武隈の一角でツシマムツボシタマムシを採集し, 当時の驚異的な分布記録であったことから一気にタマムシに傾倒して



いく. また, 職場の立地面もあって栃木・茨城両県と阿武隈の甲虫相を熱心に追求し, 先進的に記録をまとめていく. あるいは北海道や沖縄の興味深さに触れる. これらにはフィールド案内的な記述もあって実際面で役立つことも多いだろう.

じつは, 著者は微生物の研究者である. その仕事から, しばしばタイへ長期出張していたが, その滞在時に日本から虫屋を招き, 自らツアーコンダクター役となって採集の便を図ってきた. これを巷では「大桃大名旅行」とか「大桃ロイヤルツアー」と呼び, 筆者もずっとその恩恵にあずかってきた. それゆえ, サブタイトルに「タイ」が入っているながら, そのタイに関する記述部分が少ないのが, 本書の不満と言えば不満である.

末尾には本書に登場する日本産甲虫の一覧表が掲載されている. なんと驚くべきことに, カミキリムシ科119種, タマムシ科102種はじめ, 合計で436種もあるのだ. これほど多くの甲虫が登場する読み物は珍しい. しかも特定の分野に限られないことは, 10種以上掲載の科が10を超えていることから分かる. いかにも著者が多くの分類群にわたって興味を抱き, 実際に採集し, 調べてきたか. 脱帽である.

(高桑正敏)

【訂正】

以下の点は著者校正段階で修正指示があったものの, 編集段階で修正し忘れたものである. ご迷惑をおかけした著者ならびに読者の皆様にお詫び申し上げます.

さやばねニューシリーズ21号

- p. 9 短報内 (誤) コメツキモドキ科
(正) コメツキモドキ亜科
p. 51 短報内 (誤) “Kojima & Morimoto,
2010” (2箇所)
(正) “Kojima, 2010”

(編集委員長)

【訂正】

佐野・吉崎 (2015) は岩手県からチョウカイクロマメゲンゴロウを記録したが (さやばねニューシリーズ (20) : 42), 同県からはすでに記録があるというご指摘をいただいた (高橋誠・芽橋輝昭, 2005. チョウカイクロマメゲンゴロウ岩手県の分布, 月刊むし, (412): 49). 訂正してお詫び申し上げます.

(佐野真吾)